

千葉県標準学力検査「Q & A」を作成しました。千葉県標準学力検査を理解していただくためにお役立てください。

Q 1 「千葉県標準学力検査」はどのような学力検査ですか。

A 1

「千葉県標準学力検査」は、児童生徒一人一人が、一年間の学習内容をどの程度身に付けたかを知るための学力検査です。

千葉県標準学力検査には、

- ① 学習指導要領の3観点に基づいた問題構成
〔第2部70%、第3部30%を基本としています〕
第1部 主体的に学習に取り組む態度（5つの質問）
第2部 知識・技能……………70%
第3部 思考力・判断力・表現力……30%
- ② 到達度評価で、一人一人の到達度がわかる
- ③ 小問ごとに評価規準を設定し、それに基づいた問題を作成
 - ・問題数は基本50問で、学習内容をほぼ網羅
 - ・千葉県内で採択されている教科書の内容から出題

など6つの特色があります。

千葉県教育会館のホームページに「千葉県標準学力検査」のパンフレットを掲載しています。パンフレットには、「千葉県標準学力検査」の目的、特色、作成している教科、提供される資料等が記載されていますのでご覧ください。

Q 2 問題用紙を返さないのはなぜですか。

A 2

- ① 学校や教育委員会では、経年変化を見ることも必要になってきます。そのためには、正確なデータが求められます。
- ② 問題用紙を返すことにより、下学年の児童生徒が事前の学習をできるようになり、次年度以降の検査に影響します。
- ③ このことは、児童生徒の学習状況を正しく測れるか、検査の信頼性にも関わってくることとなります。

以上のようなことから、問題用紙を返さないという対応を取っています。

Q 3 問題は、どのようにして作成されるのですか。

A 3

検査問題は、教科書の改訂に合わせて全面改訂を行っています。

検査問題は、主に次のような手続きを経て作成されます。

- ① 学習指導要領(解説を含む)、並びに千葉県内で採択されたすべての教科書を検討します。
- ② 検査問題を作成するために、まず学年別・教科別に評価規準表を作成し、評価規準表に沿って問題を作成します。
- ③ 予備調査を実施します。
- ④ 予備調査をしたデータをもとに、問題を検討し修正します。
- ⑤ 問題の妥当性・信頼性を確認します。
- ⑥ 問題が完成します。

このように、手間と時間と費用をかけて検査問題は作成されます。

※妥当性…その評価方法が、測りたい学力を確かに測っているかということ。

※信頼性…その評価方法により、誰が何度測っても同一の結果が出ること。

Q 4 復習するための問題などは用意されているのですか。

A 4

「千葉県標準学力検査」では、予習や復習をするための補助問題が活用できるようになっています。

- ① 小学校用の補助問題として、「ちばっ子チャレンジ100」を紹介しています。

全国学力・学習状況調査(小学校の国語、算数、理科)を参考にして、基礎・基本となる問題や思考力・判断力等を高められるよう千葉県教育委員会が作成した問題です。学習した内容を復習したり、これから学習することを予習したりすることができます。

[ちばっ子チャレンジ100／千葉県 \(chiba.lg.jp\)](http://chiba.lg.jp)

Ctrl キーを押しながら左クリックをすると、「ちばっ子チャレンジ100」のページが出ます。



チャレンジ100
QRコード

- ② 中学校用の補助問題として、「ちばのやる気学習ガイド」を紹介しています。

学習指導要領や県の実態、全国学力・学習状況調査等を踏まえ、中学校の国語、社会、数学、理科及び外国語の教科を対象に、千葉県教育委員会が問題を作成しています。生徒の「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の育成にお役立てください。

[ちばのやる気学習ガイド／千葉県 \(chiba.lg.jp\)](http://chiba.lg.jp)

Ctrl キーを押しながら左クリックをすると、「ちばのやる気学習ガイド」のページが出ます。



やる気学習ガイド
QRコード

Q5 「実施の手引」に載せられている数値が、昨年と同じなのはなぜですか。

A5

- ① 本検査は、「観点別到達度」とあるように、児童生徒一人一人が、一年間の学習内容をどのくらい身に付けているか知るために行われています。そのためには基準となるものが必要になります。その基準として、改訂初年度の検査問題のデータを使用しています。
- ② 基準となるデータと比較して、学習内容がどの程度身に付いているのか評価することになります。
- ③ 毎年、新しいデータを「実施の手引」に載せるということは、基準が毎年変わるということになります。

極端な場合として、

- ・ 去年の平均得点が 80 点とすると、80 点を取った人の学力標準点は 50 点。
- ・ 今年平均得点が 70 点とすると、70 点を取った人の学力標準点は 50 点。

同じ問題で同じ点を取っても、年度によって学力標準点が異なるということが起り得ることになります。つまり、評価が異なるということになります。これでは、「観点別到達度」の意味がなくなってしまいます。

Q6 国語は 80 点（県平均 76 点）で観点別評価は A・A、算数は 90 点（県平均 76 点）で観点別評価は B・Bなのはなぜですか。

A6

国語と算数の A・B の観点別評価基準は、次のようになっています。

観 点		配 点	B	A
国 語	知識・技能	30	18～22	24～30
	思考・判断・表現	70	27～55	56～70
算 数	知識・技能	70	50～66	68～70
	思考・判断・表現	30	4～24	25～30

表から、国語は 80 点で観点別評価が A・A、算数は 90 点で観点別評価が B・B になることがあります。

観点別評価基準は、標本児童生徒の観点ごとの得点分布をもとに作成されています。得点分布の型はひとつではありません。平均得点の周りに得点が多く集まると、得点の分布曲線は、平均得点の近くに山ができる形になります。また、山が 2 つある場合や、分布曲線がなだらかで山がそれほど高くない場合などいくつかあります。

県平均得点は、(知識・技能の県平均得点) + (思考・判断・表現の県平均得点) になります。国語と算数の「知識・技能の得点分布」や「思考・判断・表現の得点分布」は、必ずしも同じではありません。そのため、県平均得点と同じであっても、得点の高い教科の方が観点別評価は低くなることもあります。